



2017年8月

「岩手県環境保健研究センター」では、県民のみなさんの健康といわての環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

- ① 県民のみなさんの健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
- ② 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
- ③ 行政の課題に対応した調査研究
- ④ 技術支援・情報発信・研修指導

広報誌「環保研聞録~I-RIEP Journal~」では「環保研（かんぼけん）センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしています。

「夏休み子ども講座」を開催しました！

7月28日(金)、環境保健研究センターで『夏休み子ども講座~実験で不思議な世界を体験しよう~』を開催しました。盛岡市内の計11校より小学5・6年生46名が参加し、当センターの研究員と共に実験に取り組みました。

参加者の皆さんには、

- ★ DNAの取り出しに挑戦！
- ★ うまく固まるかな！？
- ★ じえじえジェラート！？
- ★ えっ！こんなところに放射線！？
- ★ ミルクってすごい！

の5つの実験テーマを通して、健康や環境、科学に対する興味・関心を持ってもらうとともに、当センターの業務について知っていただく機会となりました。



写真 「子ども講座」
当日の様子

この他、7月17日(月・海の日)には、アイーナ(いわて県民情報交流センター・盛岡市)で開催された『いわてまるごと科学館』に出展し、「ホントにきれい？ あなたの手洗い!」「こんなにきれい！ いわての大気♪」2つのテーマを中心に当センターの取組を紹介しました。

お知らせ

環境保健研究センター一般公開

10月7日(土)開催(予定)

★ 詳細は決まり次第ホームページでお知らせします! ★

みなさんの身近の川はきれいですか？－公共用水域測定結果の見方－（環境科学部）

岩手県では、川や海の良好な水質を守るため、県内の主要な河川等で毎年水質測定を実施しています。

最新データ（平成 27 年度）では、水質の指標である BOD^{※1}、COD^{※2} の環境基準が、河川で 100%、湖や海を併せた全水域でも 97.3% と高いレベルで達成されています。

昭和 62 年からの BOD 環境基準達成率の推移を見ると、達成率は上昇傾向で、年々水質が改善されてきたことがよくわかります（図参照）。また、岩手県は全国と比較して達成率が高く、良好な水質が守られていることがわかります。

これは、昭和 40 年代からの工場・事業場排水対策に引き続き、平成の初めころから本格的に取り組みを開始した生活排水対策が浸透した結果であると類推されます。

生活排水対策のため、平成 4 年に作成した「岩手県河川水質マップ」によると、魚が住めないくらい汚れていると判断された調査地点が 9ヶ所もありました。また、当時の県政モニターを対象に

河川水質についてアンケート調査を行ったところ、約 7 割の人が身近の川が汚れている」と回答し、そのうち 8 割の人が「汚れの原因は生活排水」であるとの回答でした。

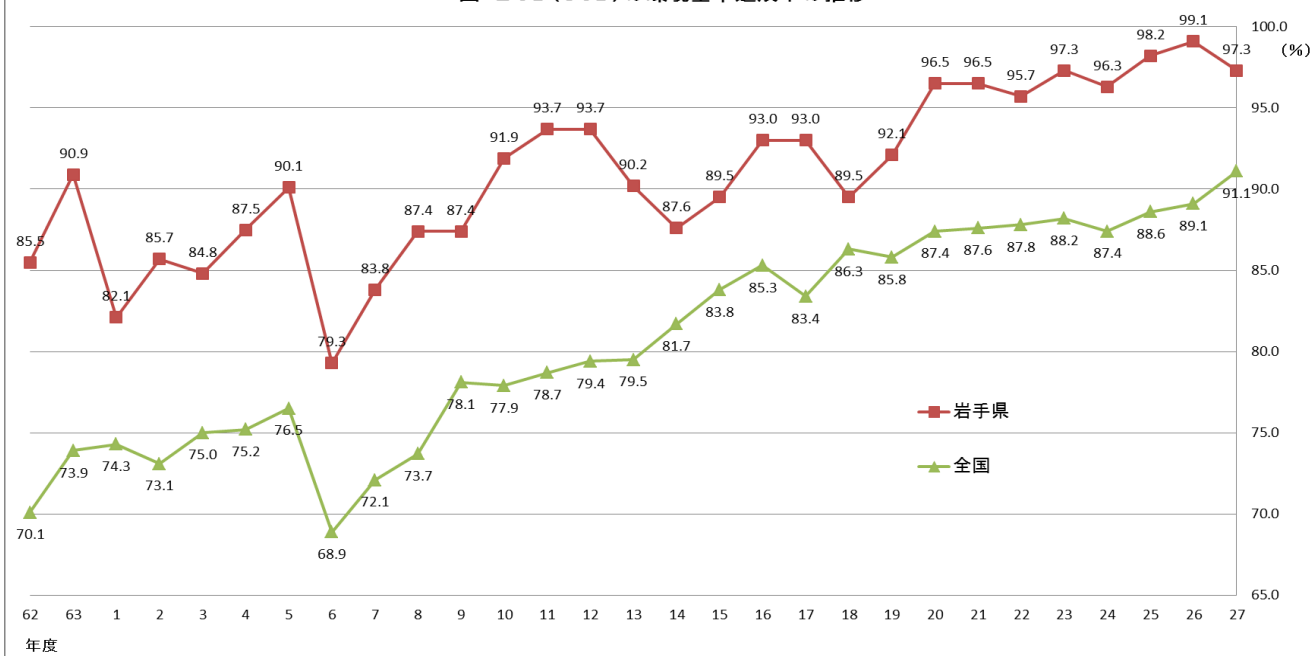
現在では良好な水質となっていますが、今後もきれいな水環境を次世代に引き継ぐために、一人一人の『普段からの心がけ』がとても大切です。

Check!

普段からの心がけ

- ・調理くずや食べ残しを流さないようにしましょう。
- ・野菜くずや食べカスはゴミに出すか埋めて土に戻しましょう。
- ・米のとぎ汁を植木や畑の散水に利用しましょう。
- ・テンプラ油は、下水に流さず古新聞紙などに吸い込ませてゴミとして出しましょう。
- ・洗剤、石ケンなどは決められた量をはかって使いましょう。

図 BOD(COD)の環境基準達成率の推移



※1 BOD（生物化学的酸素要求量）

生活環境項目の一つ。河川について有機物による汚濁のおおよその目安として使われ、水の有機物汚濁が進むほどその値は大きくなります。

※2 COD（化学的酸素要求量）

生活環境項目の一つ。湖沼及び海域について BOD と同様に、有機物による汚濁のおおよその目安として使われ、水の有機物汚濁が進むほどその値は大きくなります。

データで見るいわての健康状態－脳血管疾患年齢調整死亡率、脳卒中－（保健科学部）

厚生労働省は、平成29年6月に人口動態統計特殊報告「平成27年都道府県別年齢調整死亡率の概況」を公表しました。年齢調整死亡率とは、人口構成の異なる集団間での死亡率を比較するため、死亡率を一定の基準人口に当てはめて算出したもので、より正確に地域と年次比較をすることができます。

この報告は5年毎に公表され、前回調査（平成22年）では岩手県の脳血管疾患※年齢調整死亡率（人口10万人対）は男性70.1、女性37.1で男女ともに全国ワースト1位でした。

今回の調査では男性51.8(全国3位)、女性29.3(全国1位)となり、前回調査と比べ年齢調整死亡率は低下しましたが、依然として全国平均を大きく上回り、女性は前回同様ワースト1位となりました(図1、2)。

図1 H27年脳血管疾患の年齢調整死亡率(男性)

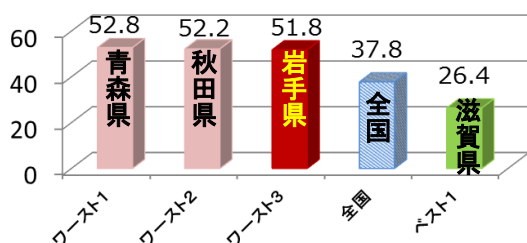
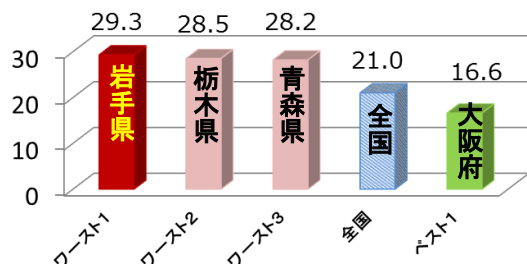


図2 H27年脳血管疾患の年齢調整死亡率(女性)



「環境保健研究トピック」を発行しています

環境保健研究センターでは、研究成果や取組等を詳しくタイムリーにお知らせするため「環境保健研究トピック」を発行しております。本年度発行した内容は次のとおりです。

【H29-01】「岩手県新人保健師研修の評価に関する調査」報告書を発刊しました

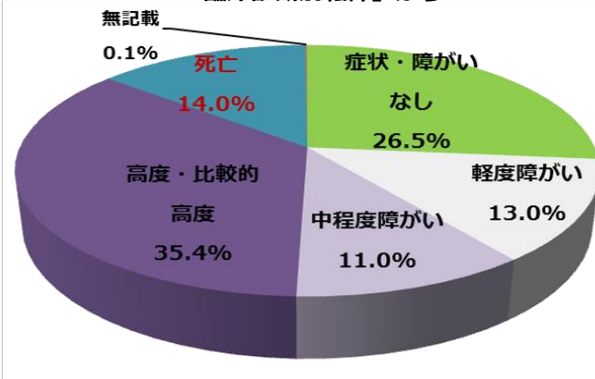
【H29-02】ヒトスジシマカ生息リスクマップを作成しました

【H29-03】環境学習交流センターでの業務紹介

水生生物を指標とした「いわての河川の水質」について紹介しています

■ [ホームページ](#)でお読みいただけますので併せてご覧ください。(アドレスは最終ページにあります。)

図3 平成26年岩手県地域脳卒中登録事業報告書－「臨床診断別転帰」から－



平成26年岩手県地域脳卒中登録事業報告書によりますと脳卒中にかかった方のうち、症状や障がいがなく回復する方はわずか26.5%です。14%の方が亡くなり、59.4%が軽度から高度障がいの後遺症が残る状態となっています(図3)。健康で生き生きとした生活を送るために脳卒中を予防しましょう。

脳卒中を引き起こす危険因子には高血圧、糖尿病、高脂血症、心房細動などの病気や肥満、塩分の取り過ぎと野菜不足、運動不足、喫煙、多量飲酒といった望ましくない生活習慣、過労・ストレスなどがあります。これらの危険因子をできるだけ減らすことが重要です。

病気については医療機関を受診し、治療に努めるとともに、適量でバランスのとれた食生活、適度な運動、禁煙、適量の飲酒などを心がけ生活習慣を改善することが大切です。

※脳血管疾患

脳の血管のトラブルによって脳細胞が障害を受ける病気の総称です。

主なものに、血管が詰まる「脳梗塞」、血管が破れて起こる「脳内出血」や「くも膜下出血」などがあり、これらをまとめて脳卒中といいます。

岩手県の環境放射能水準調査について（地球科学部）

私たちの身の回りでは、目には見えませんが、自然界からの放射線が観測されます。

このような環境中の放射能について、岩手県では、昭和62年度から文部科学省（平成25年度から原子力規制庁）の委託により環境放射能水準調査を実施しています。この調査は、生活空間の放射線量や大気中のちり、降水、水道水、農水産物等に含まれる環境中の放射能を調査し、平常時の放射能レベルを把握するとともに、安全性の確認を行うことを目的としています。

また、核実験や原子力施設事故等が発生した場合にも速やかに緊急時モニタリングを実施しています。

① モニタリングポストによる空間放射線量率の連続測定

空間線量率を常時監視するモニタリングポストを県内10箇所に配備し、リアルタイムで測定結果を公表しています。盛岡市の測定地点は、地面からの放射線の影響を受けずに大気中の異常値を早期に把握するため、地上14.7mで測定を行い、その他の測定地点では、生活空間の放射線による影響を把握するため、地上1mで測定しています。岩手県でも福島第一原子力発電所事故の影響



写真1 モニタリングポスト（盛岡市）

を受け、事故前と事故後では、盛岡市で年平均3nGyほど空間線量率が上がりました。しかし、現在では事故前のレベルまで戻ってきています。

測定結果は以下のページで確認できます。

<http://www.pref.iwate.jp/houshasen/torikumi/019101.html>

② ゲルマニウム半導体検出器による測定

人工放射性物質の多くはガンマ線を放出します。環境試料中に存在するガンマ線放出核種とその量を調査するため、ゲルマニウム半導体検出器による測定を行っています。

この7月には洋野町種市沖にて、海水と海底土を採取してきました。また、洋野町産の昆布も試料として購入してきました。これまでの調査結果では、この地点の海水、海底土及び昆布からは人工放射性物質は検出されていません。

これからも県では安全性を確認するための調査を実施し、正確な情報を提供していきます。



写真2 種市沖での海底土採取（洋野町）



写真3 ゲルマニウム半導体検出器

【編集後記】梅雨入り以降、暑い日が続いたり激しい雨が降ったりと不安定な天候が続いています。「今年の夏の天候はいつもと違うよね」という会話、ここ何年か続いているような気がします。「クールビズ」や「節電」など、できることから温暖化対策に取り組む必要を改めて感じるこの夏です。（あ）

《編集・発行》岩手県環境保健研究センター 企画情報部

盛岡市北飯岡一丁目 11-16

TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/>

